

真盛園基本理念

1. 人間平等の原則の上で立つての福祉の増進
2. 宗教的雰囲気の中で心の安らぎ
3. 恵まれた自然環境の下での健康維持



ホームページQRコード

17年が経ちました。

「若いも若きもが開設して17年が経ちました。」
お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさん等様々な地域の方々を支えられてきました。若いも若きもの呼び名が「若い若」と短く呼ばれ、なお親しみ深く関わって頂いております。

1年の流れと共に楽しい催しで大賑わいの中、あつという間に時は過ぎました。コロナがなかったら……

閉館したり開館したり落ち着かず、もしや忘れ去られてしまうのかもしれない。それでも閉館している間に、花壇が綺麗になっていました。植木が剪定されていま

「電話もありました。『いつ頃開きますか』……。閉館していても若い若は以前のままです。いつでも再開できるようにしています。コロナと共に今の若い若は、予約制で人数も制限されています。消毒手洗いは必ず。密にならないよう間隔をあけて、マスク着用でお話をします。大声は出しませぬ。食事の提供はありません。大人のみ



です。それでも若い若を利用してくださる方がいて、少しずつ1組2組ですが、以前の様子が感じられるようになりました。

この度、奥の部屋の畳を一新しました。お向かいの上又畳店さんに依頼を頂きました。

注文してから再開するのに少し間が空いてしまったのですが、新しい畳は湿気に弱いという事で、締め切った状態ではカビが生えてしまうといけなないので、上又畳店さんで預かってくださいました。再開と同時に畳が入れ替わりました。新しい畳のにおいが部屋中に広がり、今やフローリングの部屋が多く、畳を敷いた和室が減ってきている中、古民家の懐かしさと子供のころの感覚が蘇ったような気がしました。新品の畳がまた古くなり次の入れ替える日が来るまで若いも若きもの発展を祈るばかりです。

若いも若きものコーディネーターである中島さん今も1人ですが、若い若に来て下さる方がある限り末永く頑張ります。と心強いです。これからの未来に向かって若いも若きもは走り続けます。

歴史ある真盛園と私 72周年を迎えて



理事長 前阪 良恵

私が初めて知った福祉という社会、そして高齢者施設を知るのは昭和34年(1959)修行の傍ら大学へ入学の為に福井県から大阪市鶴満寺へ小僧生活に入った時でした。当時鶴満寺には養老院施設がありました。お年寄りが50人程生活しておりました。当時長谷川真元住職さんが戦後の大阪市の生活困窮者の老人、身寄りのない老人の為に境内に創設。それに共働きの夫婦の為に保育所も開設。老若の為に社会貢献活動、慈善事業をしておりました。養老院、保育所の年間行事の時は私もお手伝いをしておりました。

歴史を紐解くと、昭和26年に総本山西教寺境内(総門入って右側)には大津市立真盛養老院が開設、定員50名で、やはり身寄りのない生活困窮者の方々の生活の場でもありました。昭和30年(1955)に社会福祉法人真盛園養老院、昭和39年社会福祉法施行により養老老人ホーム真盛園と改称。その当時はまだまだ身寄りのない生活困窮者、独居老人の生活の場でありました。まだ滋賀県大津市に施設が2か所あっただけで真盛園は2番目に古い施設でありました。

私は昭和41年(1966)総本山西教寺塔頭開證坊住職を拝命と共に、天台真盛宗務所総本山西教寺事務所へ勤務することになりました。その後高齢化社会が進むにつれて、高齢者の平均年齢が高くなり、介護(食事・入浴・排泄)を必要とする老人が増え、特別

アルコールチェック義務化



2022年4月1日よりアルコールチェック義務が義務化されました。これは2021年6月に千葉県八街市で飲酒運転の白ナンバーのトラックが児童5人を死傷させた痛ましい事故がきっかけに白ナンバーのアルコールチェック義務化になったと言われています。

対象は乗車定員11人以上の自動車を1台以上、又は乗車定員10人以下の自動車を5台以上使用している事業所で(当園は現在公用車17台中8台が対象)安全運転管理者の選任が必要。内容は安全運転管理者が目視等による確認、運転者の酒気帯びの有無について確認すること、10月1日からは目視での酒気帯び確認に加え、アルコール検知器による確認も義務づけになりました。しかし義務化に伴い国内に於いて検知器の発注が一斉に行われ供給量を必要が遥かに上回り品不足となり、更に折からの世界的な半導体不足などの要因から10月1日からの検知器を使つてのアルコールチェックは難しくなりました。そういった状況を受けて当園の対応は4月の施行に先ず運行日誌の様式を義務化にあわせました。目視等による確認の項目を取り入れ8月には一部携帯型のアルコールチェッカーを導入し、検知器でのチェック項目を設け先行して義務化に対応しました。現在は12月上旬にアルコール検知器が導入され、運転する前には必ずチェックするように周知し習慣づけています。



何かと不慣れなことではありますが定められたことに不備が無いよう又、違反者が出ぬよう無事故無違反に取り組んで行きたいと思っております。

養護老人ホームが開設しました。真盛園は養護老人ホーム、特別養護老人ホームの併設の2施設を運営することになりました。私が平成8年(1996)7月5日から当時理事会に於いて、介護保険制度(2000)が施行されるために高齢者施設が一変するその対応、制度に遅れないよう施設長に選任されました。また、国の方針に従って、県・市に於いても施設に介護保険制度の指導、準備が進められました。私はその当時大津市議会議員(4期)で大津市議会でもいろいろと議論を交わし、勉強の最中であつたことを思い出します。そして真盛園が確実に介護保険制度に遅れないよう、職員に勉強、研修をしていただきました。居宅介護支援事業所・あつたかホーム地域交流センター「若いも若きも」等介護関係の事業を立ち上げました。

爾来令和3年6月30日まで25年間施設長を務めてまいりました。令和元年から法人理事長に就任しました。振り返りますと昭和52年(1977)に法人監事に私と辻喜正氏(深光寺檀徒・雄琴学区自治連合会会長)が任命され、当時の理事長は宗門の御大徳の方々で長谷川真元理事長(天台真盛宗務総長)、八耳哲雄施設長・常務理事(第43代大津市議会議長)、色井秀護理事(後の第41世西教寺貫首)、山本孝圓理事(後の第42世西教寺貫首)、川本哲順理事(滋賀教区宗務支所長)、松尾昭信理事(総本山一山長老)さんでした。法人監事・施設長(常務理事)現、理事長等を含みますと今年で、通算46年になりました。真盛園は総本山西教寺が設立母体であります。開設当時から利用者のお用いが出ると思はず山内住職が葬儀を勤めます。そしてお盆には施餓鬼法要、仏教行事である①花まつり②節分会③彼岸法要④釈迦涅槃会を1年間通じて利用者の皆様とともに努めて参りました。過去の話ですが、昭和40年時代は元気なお年寄りも多く総門前の掃除や、総本山西教寺

ご寄贈 ありがとうございます

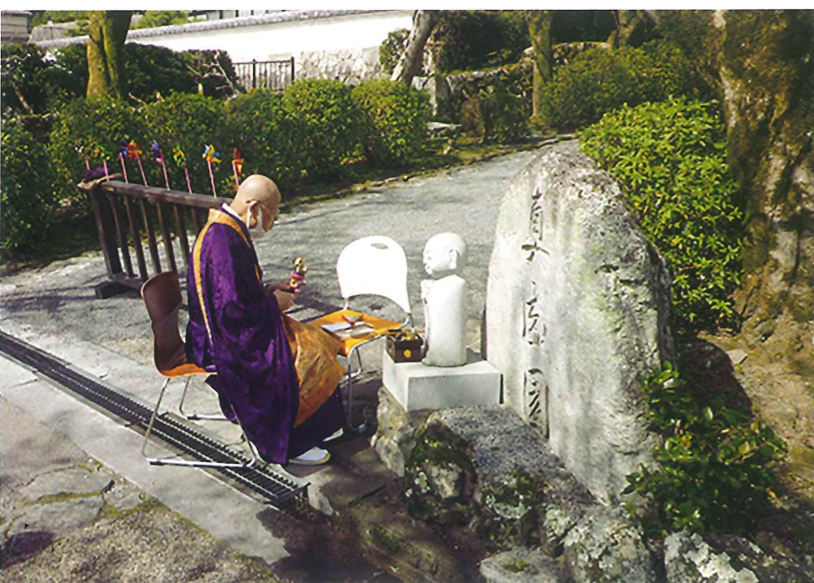


◎家族様ご寄贈



編集後記

令和5年卯年。コロナと上手に付き合いながら、職員が一丸となり飛躍できる年になるよう頑張ります。72周年という歴史を振り返りつつ前を向き、右へ左へと曲がりながらも目標に向けて一歩を踏み出し、前進しようとしています。これからの真盛園をどうか温かい目で見守っていただけたらありがたいです。今後とも利用者の皆様、ご家族の皆様へ誠心誠意をもって関わっていく所存です。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。 広報委員



ほほえみ地藏尊

お正月のお花

今年も新年を迎えるにあたり、華道のお好きな方を募り、活けて頂きました。

花器と剣山と花ばさみを用意しておくだけで、好きな花を選び、無心になって活けてくださいました。正面に飾った花は利用者様の目に留まり、少しでもお正月気分を味わっていただけたかと思えます。花を見て「きれいだな」と言って下さるお気持ちが嬉しく、心温まる思いでした。



運動会



秋も終りに近づいたころ、カラフルな旗が飾られ何やら楽しいな雰囲気。

利用者様の頭には鉢巻が締められ、2つの円陣が組まれました。

わいわいがやがや、大きな拍手や笑い声が聞こえてきました。コロナ化を少し忘れ、皆さんが1つになってボールを

回したりかごに入れたり、競い合っておられる姿は、我々職員にも心響くものがあり、コロナの終息と利用者様の健康を祈らずにはいられませんでした。



ぶりの解体ショーで 大盛り上げ!

ぶり解体の迫力あるショーは、利用者様が大きい盛り上がりです。

調理職員が見事な手さばきでぶりをさばっていきます。解体ショーはスタッフが自信をもっており、その後の握り寿司はたいそう美味しいと評判です。衛生管理や備品の準備も万全でおもてなしを実現しております。利用者様の前で職員も少し緊張した面持ちでしたが、始まると一気に解体され、あっという間でした。皆様の拍手や驚きの声と共にひと時のイベントでした。



おぜんざいの提供

新型コロナ流行のため以前のような外出や行事が出来ない状況が続いています。そのような中職員達は、ご利用者様に少しでも季節感や非日常を感じて頂ける事は無いかと試行錯誤しております。

総務部からも「何かご利用者様に喜んで頂く企画がしたい。季節感を感じて欲しい。」と「おぜんざい」を提供する事にしました。高齢者は嚥下機能が低下しているので普通の白玉団子は喉に詰まる事があります。そのため試食を重ね、粘りが少なく大きさも大豆サイズの特別な団子を使う事になりました。

ポスターを貼って事前に告知していたので楽しみに待っていて下さった利用者さんもいらっしゃいました。当日は天気もまずまず、一部の利用者さんには、中庭に毛せんを敷いた長椅子を出しお外で召し上がって頂きました。「美味しかった」とわざわざ事務員にお礼を言いに来て下さる利用者さんもいて喜んでいただけたようです。



令和4年度 敬老祝賀会

今年も新型コロナウイルス感染症の為、対象者のみで開催することとなりました。

今年88歳の米寿祝、101歳以上の長寿祝のお祝いを9月15日(木)と27日(火)に開催いたしました。

米寿祝 計10名

特別養護老人ホーム 7名
養護老人ホーム 3名

長寿祝(101歳以上) 計7名

特別養護老人ホーム 5名
養護老人ホーム 2名

前阪理事長の挨拶、「皆さんいつもまでもお元気で」と頂き、記念品として大津市から賞状、真盛園から米寿の方には写真・ひざ掛けを寺崎常務理事よりおひとりおひとりに贈呈、長寿の方には前阪理事よりお祝いの言葉と感謝状・ひざ掛けの贈呈がありました。

米寿代表の方より謝辞がありました。緊張しながらもしっかりと大役を務められました。

西教寺様から敬老祝金を頂戴いたしました。ありがとうございました。

1日も早く新型コロナウイルス感染症が落ち着き、皆さんでお祝いできる日を楽しみにしています。



綿菓子

綿菓子(わたがし)とは、溶かしたお砂糖をごく細い糸状にしたものを集め、綿状にした菓子で綿綿(わたあめ)とも呼ばれている甘いお菓子です。

この日は中庭に綿菓子機を置いて、利用者様に作り立てを召し上がって頂きました。職員が感染対策をしながら、虹色の綿菓子を作りました。独特の甘く芳ばしい香りが漂い、目の前で作られる様子を見て楽しんでいただきました。

ふわふわとした食感が魅力で、湿気に弱く、時間が経つと固まって姿と食感が失われてしまいますが、楽しくお話をしながらゆっくり食べていただきました。



マジックショー

11月21日、28日の2日間にわたり、年間163公演実績のある、出張マジシャンkyoさんを養護の食堂にお招きしてマジックショーを披露していただきました。

当日は利用者の皆様、職員共にかぶりつくようにマジックショーを楽しみました。

利用者の皆様も、目の前で起こる不思議な現象に、最後まで興味深々とされた様子で、感動で涙される利用者様もおられました。





年頭のご来訪



常務理事 寺崎 豊 好
(西教寺塔頭禅智坊・禅明坊住職)

花曇りの穏やかな日々が続くこの頃となりましたが、長く新型コロナウイルスの影響の中、皆様方におかれましては、当園の運営に對しまして、様々なご協力ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

現代の抱える問題の中で福祉を取り巻く環境が変化しており、コロナ感染拡大を受けて、あらゆる面で生活様式を見直す必要に迫られ、私たちの職場においても、たくさんの変化をもたらしました。会議はWEB会議、面会はオンラインの導入と、デジタル化を加速し、感染防止のため様々な対策を行ってまいります。

ポストコロナを見据えて更にICT化を促進するとともに、ご利用者本位の更なるサービスの質の向上と人材育成、地域福祉の推進や地域貢献活動など、職員皆が知恵を出し合い二歩三歩着実に、新しい施設運営のあり方を試行錯誤しながら取り組んでいきたいと考えております。

最近ではワクチンに加え、治療薬も開発され実用化されていますが、コロナの今後については、まだ見通せません。今年もまずは、基本的な感染対策を守り、そのうえで皆様方が、安心してより充実した施設生活を送ることができますよう頑張つてまいります。一日も早く、元のように諸行事が再開できるように、皆様とお目に掛かれることを切望しています。

さて今年、「卯（ウサギ）年」。卯は穏やかで温厚な性質であることから「家内安全」。また、その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。

干支では「癸卯みずのとう」で、組み合わせから、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になると考えられます。

このような年に当たる本年正月に、一匹のウサギが、突然、

当真盛園前で発見され保護致しました。

御縁として暫くは、当坊でお預かり致しておりますが、幸いにも引き取りたいという方が現れる巡り合わせとなり、今はその方に大切に飼っていただいております。

そこで卯年の不思議な御縁にちなんで、日本最古の歴史書『古事記』に、「因幡の白兔」という有名な日本神話が説かれ紹介させていただきます。

この話の舞台は、出雲の国（現在の鳥取県）で、そこに大国天という神様がおられ、大勢の兄弟がおられました。

兄弟の神様たちは因幡の国に美しい姫がいるという噂を聞き、みんなでプロポーズしようと出かけられました。大国様は優しくおとなしい性格でしたので、列の最後で荷物を持たされて歩いていました。

道中で毛をむしられ苦しんでいるウサギを見つけた先を急ぐ兄弟たちは、そのウサギに意地悪をして、海水を浴びて風にあたるとよいと嘘をつきました。

そのウサギが素直に教えの通り実行した結果、傷がひどくなり激痛で苦しんでいるところに、後からついてきた大国様が通りかかりました。

大国様はそのウサギを見て、なぜこのような無残な姿になったか尋ねます。

ウサギは本土から離れた隠岐の島に住んでいたのですが、一度この国の本土に渡ってみたいと思つて泳がずに渡りたかつたので、知恵を働かせ、ウサギはワニにこの島に住むウサギとワニはどちらが多いか比べようと言つて話を打ちかけました。

ワニたちはウサギの言うとおりに一列に背中を並べると、ウサギはその数を数えるふりをしながら、背中を飛び渡つて飛び石の代わりにして本土の岸まで渡っていきましました。

しかしもう少しというところで、ウサギはうまく騙せたことがうれしくなつて、つい騙したことを言つてしまい、ワニを怒らせてしまいました。仕返しとしてワニはウサギの皮をむしり取り、丸裸にしてしまつたのです。

ウサギが痛くて泣いているところに先程ここを通られた神様たちが、誤つた治療法を教えて傷が悪化してしまつたのでした。

大国様はそれを聞いてそのウサギに言いました。かわいそうに、すぐに真水で体を洗い、それからガマの花を摘んで、その上に寝転ぶのが良い。

そう言われたウサギは、今度は川に浸り、集めたガマ

の花の上に静かに寝転びました。そうするとウサギの体から毛が生えはじめ元の白ウサギに戻りました。

傷が治つた因幡の白ウサギは、そのお礼の代わりにある予言をします。その予言というのは、意地悪をした大国様の兄弟たちは美しい姫と結婚できずに、後に遅れて来る大国様と結婚するということでした。

そのあと、遅れて大国様は因幡の国に着かれましたが、予言どおり姫が求められたのは大国様でした。

短いあらすじの中に知恵と救援、幸福が織り交ぜられ「因果応報」の世界が表現されております。

悪いことや良いことはした分だけ自分に返ってくることを私たちに教訓として教えてくれます。

介護・福祉の世界でも専門的な知識や能力は、職員により段階があるものの、自己の能力の範囲内で最大限に他人や組織のために尽くす姿勢は、やがて自分や近くの方々に、喜びや幸せをもたらすもので、同じように受け止められます。

このことは、あくまでもすべて奉仕することや犠牲になることではなく、自身の時間、体力、知力の範囲内で他者の為に献身的に福祉的活動をする事であります。

介護が必要な方に寄り添い、個人の尊厳と意思を何より一番大切に、生活の質の向上に向けて、喜び・笑顔のある日々をサポートする姿勢で取り組んでまいります。

皆様のお力、ご協力などをいただきながら、地域に根ざし、共生できる施設として、職員それぞれが力を合わせて信頼にお応えできるよう、今後も努力してまいりますので、本年もこれまで同様のご支援を心からお願ひ申し上げます。

末筆ながら、関係各位の皆様方に、日ごろの感謝を申し述べますとともに、更なる飛躍の糧としていただきたく存じます。皆様のご健康と益々のご発展をお祈り申し上げます。



持続可能な法人を目指して

真盛園は、昭和31年（1956）に社会福祉法人として設立されて以降、現在に至るまで先人の方々のよって、多くの福祉事業を立ち上げ、地域「坂本の町」に根差した福祉を展開し、社会福祉法人としての責務を果たしてきました。

創立72周年を迎えるにあたって、今後も維持・発展していくために法人の方向性を示す「中期計画」を策定し、今抱える課題をもう一度原点に立ち返り見つめ直し、将来を見据えた今後の中期ビジョンを明確化し、実行していくこととしました。原点に立ち返る意味で、まず真盛園の基本理念を再確認し、「経営方針」「介護方針」を新たに打ち立てました。課題となる内容については「経理管理」「財務管理」「人事管理」「事業管理」の4つのカテゴリーに分けて、それぞれの課題を当てはめていき、解決に向けて取組む開始時期、実行していく開始時期を決めていきました。

現状認識と将来を見据えた課題として「少子・高齢化」はやはり大きな問題であり、以前から少子・高齢化については問題視されてきましたが、2023年に入りいよいよ現実味を帯びてきました。厚生労働省の調査では65歳以上の高齢者数は2025年には3677万人になり、2042年には3935万人となりピークを迎える予測となっています。しかしながらその後は減少に転じていくと見られています。

すので、現在真盛園が展開している事業につきましても長期的な視野、計画が必要になってきます。一方、少子化につきましても、ただでさえ介護人材不足の状況の中、更に少子化が進み労働人口が減少することを考えると、介護する側も高齢化することが考えられ、労働環境等の整備も必要になってくると思われ



その他にも課題はたくさんありますが、今回改めて真盛園の現状と課題を見つめ直してみても、先人の方々が培ってこられた「地域福祉」を今後も維持・発展していけるよう真盛園におられるご利用者様はもちろん、地域福祉にも寄与できるよう努力していきたいと思えます。

《令和4年度 各種団体・真盛園の表彰》

令和4年度の各種団体の被表彰者に16名を推薦させて頂き、16名がこの秋に表彰を受けました。また真盛園内において永年勤続表彰で2名、滋賀県民間社会福祉事業職員共済会から20年表彰に2名、30年表彰に1名が表彰されました。永年勤続については、常に働きやすい職場環境の追求してきた賜物ではないかと考えてい

ます。また各種団体での福祉事業への功労においても、職員一人ひとりが存分に自己研鑽し、力を発揮したことにより被表彰者に選ばれたのではないかと思います。今後もワーク・ライフ・バランスの整った職場を目指し、それぞれが高め合える職場づくりをしていきます。

滋賀県知事表彰

高橋 清志

大津市長表彰

清水 智子
西村祐三子

滋賀県社会福祉協議会会長表彰

東 美枝子
炬口 弥生
宮本 圭子

大津市社会福祉協議会会長表彰

景山 洋子
川口 香
川中 浩
北村 真弓
新 順子

滋賀県老人福祉施設協議会会長表彰

石川 智子
高倉 民子
中山 真理
西田 佳子
原 千代子

滋賀県民間社会福祉事業職員共済会

30年表彰 高橋 睦男
20年表彰 村林 尚子
清水 智子

社会福祉法人真盛園

永年勤続表彰(20年) 安部 裕子
福井 齋